



①縄文時代中期の環状集落

縄文時代中期の竪穴住居跡は、中央広場を中心として環状に分布しており、このような縄文時代中期の典型的な集落形態を「環状集落」と呼んでいます。その範囲は中期の中頃で径約 200m 以上に及びますが、次第に縮小していく状況がうかがえます。



②縄文時代後期の配石墓群

史跡指定地内から縄文時代後期の墓地が発見されています。なかでも配石墓と呼ばれる石を基盤にした墓が多く見つかっており、円形に緑石を巡らしたり、さらにその中に石を詰め込むものが見られます。



③後期初頭の敷石住居跡



④中期末葉の敷石住居跡

縄文時代中期末葉の約 4,500 年前には、従来の竪穴住居に代わって敷石住居が現れます。敷石住居は床面に石を敷き詰めた住居であり、入口側に特徴的な張り出しがあります。川尻石器時代遺跡からは多数の敷石住居跡が発見されており、その発達や変化がうかがえる貴重な遺跡と言えます。



市有地 ●縄文時代中期の竪穴住居跡



⑤中央窪地周辺で採集された祭祀遺物

川尻石器時代遺跡では土偶、石棒、石剣など縄文時代後期～晩期を中心とする豊富な祭祀遺物が出土しています。これらの多くは、焼けた動物の骨と共に「中央窪地」と呼ばれる集落の中心に形成された窪地の周辺で出土しており、集落内で盛んに祭祀が行われていた様子を伝えています。



⑥谷川



⑦清水の滝

当時の人々にとって水は生活に欠かせないものでした。谷川には人びとが利用したと考えられる豊富な湧水などが見られます。



⑧重複する縄文時代中期の住居跡

これまでの発掘調査により、史跡指定地の内外で縄文時代中期の竪穴住居跡が 80 軒以上発見されており、未調査のものを含めるとその数倍が存在すると考えられます。これらの住居は、およそ 1,000 年の間に残されたもので新旧の住居跡が重複して発見されます。



⑨敷石住居跡の屋外展示

昭和 5 年に発掘調査された敷石住居跡の露出展示です。外周を囲う石垣部分は後世に造られたもので、その内側部分が縄文時代の遺構です。



⑩縄文時代後期～初期の配石群

縄文時代後期後半から晩期にかけて、居住の跡は希薄になりますが、同一空間で長期にわたって墓地が営まれるようになります。



⑪縄文時代晩期の倉居跡

川尻石器時代遺跡で発見されている最も新しい住居跡は約 2,800 年前の縄文時代晩期中頃のものです。この時期の集落跡は大変少なく、縄文時代終末期の状況を知るうえでも貴重な遺跡と言えます。

史跡の保存整備に向けて

相模原市では史跡川尻石器時代遺跡の保存と活用を図るため、史跡の公有地化を進め、発掘調査で発見された敷石住居跡や配石遺構など特徴的な遺跡の保存整備に向け、調査・検討に取り組んでいます。



川尻石器時代遺跡全景（南西から）



発掘調査の現地説明会

行ってみよう！市内の国指定史跡

すからし
史跡寸沢嵐石器時代遺跡
跡径 568 番 7 ほか

昭和 3 年に発見された縄文時代中期末の敷石住居跡で、川尻石器時代遺跡とともに敷石住居研究の黎明期に調査が行われた考古学史上、重要な遺跡です。



かつさか
史跡勝坂遺跡公園
南区磯部 1780 番 ほか

縄文時代中期の大衆集落。「大自然の中の縄文時代」を体感できる遺跡公園として整備され、園内には竪穴住居が復元されています。



たなごり
史跡田名向原遺跡公園と旧石器時代ハテナ館
中央区田名地 3 丁目 13 番 ほか

約 20,000 年前にさかのぼる旧石器時代の建物跡。ガイダンス施設「旧石器ハテナ館」で、旧石器時代について学習することができます。

